



発行：ボーイスカウト石川県連盟
石川県金沢市平和町1-3-1
石川県平和町庁舎内
発行責任者：野田 政弘
編集責任者：宮東 剛文
平成29年3月31日発行

Scout Voice

【安全セミナーに参加して】

金沢第10団カブ隊
副長 中澤利昭

平成29年2月5日に、野々市市中央公民館で開催された「第6回安全セミナー」に参加しました。私は、春にカブ隊副長として登録を行い、秋に小松市で開催された「ウッドバッジ研修所」に参加、年が明けて「安全セミナー」に参加することができました、このように順調に研修に参加して自身のスキルアップができたのは、支えてくださる守山団委員長はじめとした、金沢第10団の指導者のみなさんと、妻のおかげだと思い非常に感謝しています。

さて、肝心の研修についてですが、「安全」については大きな研修の一部であったものが、あえて「安全セミナー」として別枠にされていることからも、意識して学ぶ必要があると感じおりました。もちろん私自身意識するだけでなく、指導者として登録した後は、日赤の救命救急員の資格講習を受けたりと、保護者のみなさんが安心して大事な子供を活動に送りだしてくれるよう努めてきたつもりです。しかし今回の研修を受けて感じたのは、「事故が起きてから」ではなく「事故が起こらないように」が基本であるといった事でした。もちろん今まで活動中は、スカウトに目を配り、自身も注意して行動していたつもりです。しかしながら、研修の中では「プログラム作成時も安全を考え」、「安全な活動」を行う為に自隊の指導者だけではなく、団全体で「安全に取り組む」考え方を教えて頂けました。残念ながら私の中では、30年前の自分のスカウト活動の楽し

い思い出が、前に出てしまっており、多少の危険については仕方がないと考えていた部分があったようです。「ワクワク、ドキドキの活動」を取り違えていた部分もあった様に思い反省しています。

現代のスカウト活動は、日々変化する様々な社会環境に対応する必要があります。研修の中で出てきた「安全の三原則」では、安全が最優先であり、教育などにより自分を守れるようになり、ルールを守る事により危険を避けることを学びました。この考え方を改めて教えて頂く事により、私自身「安全」に対する考え方を変える事になりました。これからも、今回のようにセミナーや研修等に参加して自己研鑽に努め、スカウトはもちろんまわりの指導者のみなさんと共に、楽しく活動を続けていきたいと思います。



(2月5日開催「安全セミナー」の一場面)



Scout Voice

【加賀ブロック 凧揚げ合戦に参加して】

根上第1団 ボーイ隊 熊取谷祐紀（小6）
僕は3月5日（日）の第4回加賀ブロック凧揚げ合戦に参加し、ボーイ部門で優勝することが出来ました。凧を作る際に一番工夫したところは骨組みから考えたことです。インターネットで調べた二つの凧の良いところを両方取り入れました。完成した凧は翼を広げた鳥の形なので横に長く、回ってしまったので当日に会場で反りを入れたら安定しました。一番苦労したことは、当日は風が弱く、ずっと「よいしょー!! よいしょー!!」と糸を引っ張っていないといけなかったので体が辛かったです。でも、そのおかげで揚がっている凧の様子が、鳥が本当に羽ばたいているように見えて良かったです。



【金沢地区 凧揚げ大会デザイン賞の感想】

金沢 第24団 カブ隊 鈴木 千尋

僕は、今年の凧揚げ大会の凧の絵をイヌワシにしました。イヌワシにした理由は、本で見たイヌワシがかっこよかったのと、お父さんに話をしたら「石川県連盟のマークってイヌワシやよ」と教えてもらったからです。絵を書くときに苦労したところは、羽と足です。羽は一枚一枚書かなくてはいけないし、足は曲がってるところが多いからです。

凧を揚げた時うれしかったのは、凧はそんなに高く上がらなかったけど、自分の書いた絵がしっかりと見えたことです。それと、閉会式の時の表彰で自分の隊がデザイン賞1位になったことです。とてもうれしかったです。



【いつも楽しい凧上げ大会】

津幡第一団 カブ隊 久田 明弘

ぼくは、カブで凧上げ大会に4回も出ました。どの凧上げ大会も、天気も良く風も凧上げにはちょうど良くてすぐ風にのりました。四角い凧は、ほきょうの糸を入れるのがむずかしかったけど、空高く飛んでくれるとそのむずかしさもふっ飛びます。風にのるまでは糸を調節することがむずかしいけど凧上げは楽しいと思いました。

その他にも絵を書くのが楽しかったです。1回目と2回目はドラえもんの絵、3回目は「王将」の文字、4回目は「平和」という文字を書きました。3回目参加したときはデザイン賞をとることができてうれしかったです。4回目の「平和」は世界が平和になってほしいので書きました。

ぼくは、ベーデンパウエルのように人を助けたり人を大切にする人になりたいと思います。ボーイ隊になったら一度大凧（人が乗れるような!!）を作つてみたいなと思います。





Supporters Voice

【凧揚げ大会高揚賞受賞の感想】

津幡第一団カブ隊長 林 利治

今年度の凧揚げ大会（3月5日）では高揚賞を頂くことが出来ました。ありがとうございます。当日は大変天気が良く、風も十分な凧揚げ日和でした。会場に着いた時も”今日は飛ぶぞ”と思ったものです。スカウトたちも楽しみにしていた凧揚げ大会ですので、皆が高く上げることが出来てホッとしています。

津幡第一団カブ隊の凧は単純な角凧です。かれこれ5年程同じ凧を作っていますが、高く上げるコツとして毎回スカウトたちへ作成時の説明で強調している事があります。「ていねいに」「大切に気持ちを込めて」ということです。凧はバランスが大事ですから（切る）（貼る）（結ぶ）を正確に行う事が重要です。その他にもちょっとした工夫やコツはありますが、それは・・・秘密です。

一生懸命作った凧がきれいに高く上がってスカウトたちの満面の笑みが見られた時、隊長もうれしくなります。でも、一番うれしかったのは帰ってきて解散時に「凧を持って帰りたい人は？」って聞いたら皆が手を上げた事ですね。

今回はカブ隊長として最後の凧揚げ大会となりましたが良い思い出となりました。

BP Voice

【スカウトのモットー】

スカウトのモットーは、“そなえよつねに”であるが、それは自分の義務を果たすための準備が、精神的にも肉体的にもいつでもできているということだ。



精神的なそなえよつねにとは、いつも命令に従う訓練ができていること、また、起りきりそうな事故、ありそうな事態をあらかじめ手落ちなく考えて、そのような時に出会ったら、その時にうつべき正しい方法を知っていて、それを実行する心構えがあることだ。

肉体的なそなえよつねにとは、適切なときに正しい行動がとれるように、強くて敏活に動ける体にしておくこと、そして実際に正しい行動をすることだ。

（スカウティング フォア ボーイズより）



プログラムレポート

【B-P 祭】

日時：平成 29 年 2 月 19 日（日）10:00～
場所：JA 小松市板津支店板津多目的研修センター

2 月 19 日、天候は晴れ、2 月の北陸では珍しく春の日差しである。2 年ぶりの B-P 祭は、ベンチャースカウトによる寸劇で幕を開けた。

B-P 祭とは、ボーイスカウトの創始者ロバート・ベーデン-パウエル卿 (BP) の生誕（1857 年 2 月 22 日）をお祝いして、世界各地で開催されるお祭りである。今回の石川の B-P 祭は、BP の足跡をたどる世界旅行とクラフトの 2 本立てで、カブ、ビーバースカウトを中心に、楽しいひと時を共にした。

参加スカウトは、「パスポート」を手に、イギリス-日本-南アフリカ-ケニア-アメリカ-インドへのわくわく冒険旅行に出発。クイズやゲームに取り組みながら、世界各地を渡り歩いた。ケニアでは現地のマサイ族が得意のハイジャンプでお出迎え、アメリカではクイズとスマートスカウトの道案内の寸劇が披露された。

企画・運営してくれた、委員会の皆さん、ワーキンググループの皆さん、リーダーの皆さん、楽しいプログラムをありがとうございました。

日本各地でも、B-P 祭が催され、その一部はインターネットでも紹介されている。ぜひ一度ご覧あれ。



（開会式の様子）



（ここは日本？）

おもしろ写真

タイトル；「帰ったぞー、行くぞー」

（白山市新幹線車両基地）

金沢 12 団副団委員長 広野良一



スカウトボイス原稿募集

スカウトボイスは、石川県連盟所属のスカウトの声を幅広くお届けする情報誌です。「BP 祭參加しました」「凧揚げ大会參加しました」「隊キャンプ行きました」「花まつりしました」などなどスカウト活動に関する記事をお寄せください。

手書きの原稿も受け付けております。スキャナー取り込みデータまたは原稿をデジカメで写して下記投稿フォームよりお送りください。

併せて「おもしろ写真」もお寄せください。

写真・スカウトボイス投稿フォーム
<http://scout-ishikawa.jp/member-info/>

Text、Word、Excel、PDF、JPG 等々に対応

